



嬉しい声

始業式の日のことです。地域の方から、本校の職員へ次のようなお声掛けがあったそうです。

この前「荷物を持って階段を上っていると、小学生の2人が、『手伝います』といって、一緒に持ってくれました。とても嬉しく、助かりました。よい子どもたちが育っていますね。

という内容のことだったようです。その職員が、嬉しそうにわたしに報告してくれました。残念ながら、名前は分からなかったようですが、このようなお話を2学期スタートの日に聞くことができ、職員全員で喜びました。

日頃から、それぞれの学級担任は「道徳科」の学習を中心に、社会のルールや礼儀、思いやり優しさなどを指導しています。6年間、繰り返し指導していくわけですが、このように学校を離れた場所（地域や家庭）で実践できる（道徳的实践力）子どもがいることがとても嬉しいです。

また、7つの「本野っ子の誓い」の1番目、「人に優しくします」や、4番目「困っている人の味方になります」にもつながることです。これからもう少しずつ、学校で学んだことが、学校外にも広がっていくといいなと思いました。

以前も紹介したことがあるかもしれませんが、宮澤章二さんの「行為の意味」という詩を思い出しましたので、再度右側に掲載します。

先日、大規模な水害があった地域で、言葉巧みにお年寄りから、現金をだまし取る詐欺の未遂事件が報道されていました。「何を考えているのだろうか」と憤りを感じました。社会の多様化が進み、暮らしやすくなった面もありますが、「自己中心的」な言動が多くなっている気もします。「相手を思う心づかい」を大切にする子どもたちを育てたいと思います。

「行為の意味」 宮澤章二

あなたの心はどんな形ですかと 人に聞かれても答えようがない
自分にも他人にも心は見えない

けれどほんとうに見えないのであろうか

確かに心はだれにも見えないけれど 心づかいは見えるのだ
それは 人に対する積極的な行為だから

同じように胸の中の思いは見えないけれど 思いやりは見えるのだ
それは 人に対する積極的な行為なのだから

あたたかい心が あたたかい行為になり
やさしい思いが やさしい行為になるとき
心も思いも、初めて美しく生きる
それは 人が人として生きることだ



～校長室の窓から～

2日は、2学期最初の昼休みがある日でしたが…。熱中症警戒値を参考にして、帽子、水筒を持って15分間の外での活動としました。子どもたちは少々物足りない様子だったのですが、外にでると、日差しが強くまだまだ警戒が必要だと感じたところです。

また、北陸や東北での大雨報道を聞くと、今後の台風の動きや、秋雨前線の様子にも気を付けておく必要がありそうですね。緊急の連絡はこれまで通り、安心安全メールを使いますので、こまめなチェックをお願いします。

校舎内を回っていると、夏休みの作品が展示されていました。力作ばかりで感心したところです。

